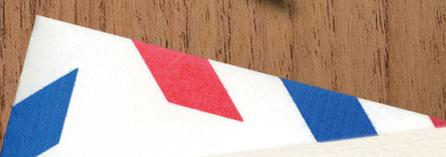


Brev från Sverige Vol.6



もっと知りたい スウェーデン

スウェーデンの文化を中心に
おいしい香りや楽しい雰囲気、人々の温もり、
旅に役立つさまざまな情報をお届けします。



Kommer vår med påsk.



Photo: Ulf Lundin/imagebank.sweden.se

【春の到来はイースターとともに】

スウェーデンでは冬から春へと季節が変わる時期の行事としてイースター*が親しまれています。新しい生命を意味する卵と雛の色である黄色の商品が、イースターの1ヶ月前からショーウィンドウに飾られ、お菓子屋では黄色のマジパンで包まれたラウンドケーキが販売されます。花屋では黄色のラッパ水仙、そして白樺の小枝に色鮮やかに染められたポスクリスと呼ばれる羽が付いた装飾が売り出されます。これはイースターを迎えるまでの間、玄関などに飾って早く春になってほしいという願いを込めるものです。イースター前夜には女の子たちが「イースターの魔女」に変装をし、籠かヤカンを持って近所を練り歩きます。そして一軒一軒の家からお菓子やお小遣いをもらい、お礼に手作りのカードを渡します。この「イースターの魔女」の格好はイースターの日には魔女たちが悪魔の住む山で集会を行うという伝説から来ていると言われています。イースター当日にはお菓子を詰めた卵形の入れ物を部屋のどこかに隠し、探し出すという子ども達にとってもビッグイベントも。クロス、紙ナプキン、食器など全て黄色でテーブルをコーディネートしたら、夕食にはキリスト教の逸話にちなんだラム肉を食べ、春到来の喜びを家族みんなで祝います。

*イースターはイエス・キリストの復活祭で、毎年3月下旬から4月下旬の日曜日に祝われる移動祝日。

Om påsklov.



Photo: Sara Ingman/imagebank.sweden.se

【イースター休暇の過ごし方】

イースター前の木曜日の午後から翌月曜日は、学校も会社も休みに入ります。この連休を利用して庭の手入れや、屋外用のテーブル・椅子を外に出します。また、その年初めてサマーハウスに出かけたり、冬に陸揚げしていた船をオーバーホールし進水させたりします。冬の間静かだった街の様子も一変し、明るい表情の人たちで賑わい始めます。森の木々が芽吹き、鳥がさえずり、太陽の日差しが強くなるのもこの頃。休み時には芝生の上で裸足になって、セーターの袖と長ズボンの裾をめいっばいまくり、太陽の光を体中に浴びる人々を目にするようになります。どれだけ寒く、まわりに雪が残っていたとしてもです。そして冬の間、凍結留めにまかれていた砂利の清掃車が通りを走り出すと、いよいよ春がやって来たと思うのです。そしてスウェーデンの人たちは春到来に喜びを感じるのと同時に、あと数ヶ月に迫った最高の季節である夏を迎えるための準備に心を弾ませ、希望を抱き始めるのです。



Photo: Lola Akinmade Åkerström/imagebank.sweden.se

PROFILE

堀紋子

北欧ジャーナリスト&コーディネーター。
北欧企業のビジネスサポート、PR等の他、
スウェーデンハウス・オーナー様専用サイト
【God Dag】内でもコラム「北欧ダイアリー」を連載中。